

【理科・小5・天気と情報2 台風と防災】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 天気の変化は、雲の量や動きと関係があることや映像などの気象情報を用いて予想できることを理解している。
- (思・判・表) 天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮設を基に、解決の方法を発想し表現している。
- (学びに向かう力等) 気象現象の規則性についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

ICT活用のポイント

共通点や差異点を見いだしやすくする資料提示と考えのスピーディーな視覚的共有を意識した授業

事例の概要

- ICT端末を活用して既習の雲画像と台風の雲画像を比較したり、台風が近付いた時の雨量の変化や台風による被害などを調べたりしながら、台風が近付いたときの天気の変化についてまとめる。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 雲画像やアメダスの雨量情報について、児童がICT端末を用いて画像を拡大したり、既習の雲画像と並べて比較したりしながら、共通点や差異点を基に問題を見だし、学習の課題をつかむ。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 台風が近付いた時の天気の変化や起こる現象(台風による被害等)について学習支援ソフトを介してインターネットの情報を調べ、ウェビングの手法を用いながら自分の考えをワークシートにまとめる。

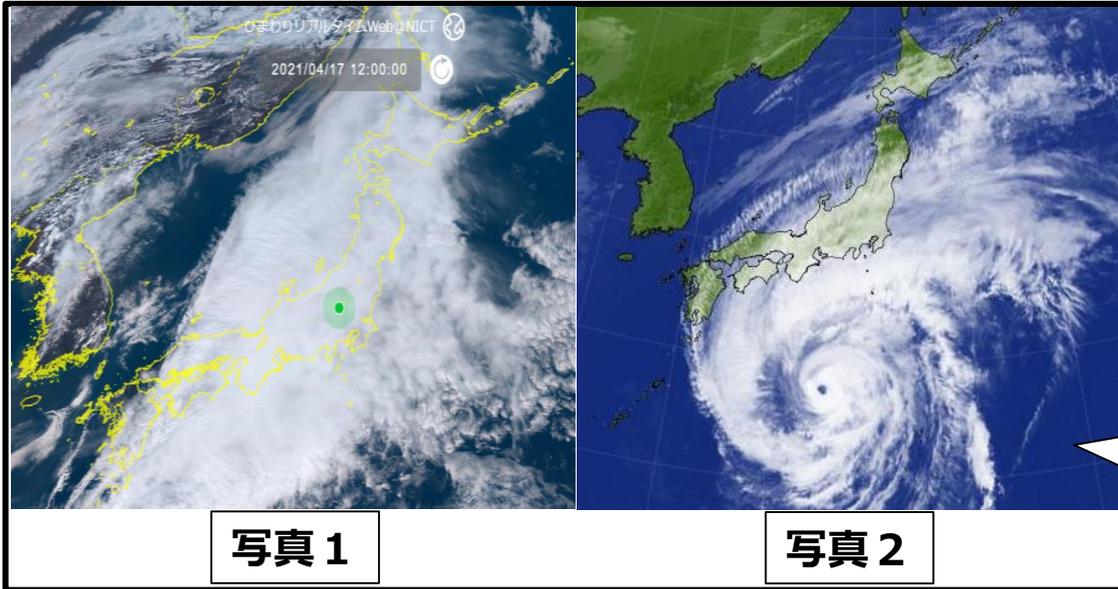
【つかむ】
既習の雲画像と台風の雲画像の比較から学習の見通しをもつ
台風が近付くと、天気はどのように変化するのだろうか

【追究する】
予想や仮設を基に、天気の変化と雲の量や動きを関連付けながら考察し、表現する

【まとめる】
台風が近付いた時の天気の変化についてまとめ、学んだことを学習や生活に生かせるようにする

【理科・小5・天気と情報2 台風と防災】②

【事例におけるICT活用の場面①】



○既習の雲画像（写真1）やアメダスの雨量情報と、台風が近付いた時の雲画像（写真2）やアメダスの雨量情報を拡大したものを黒板に並べて掲示するとともに、学習支援ソフトを用いて児童のICT端末に雲画像やアメダスの雨量情報を送信することで、共通点や差異点を基に問題を見いだすことができていた。

児童が個々にICT端末を操作し、画像を拡大したり既習の雲画像と並べて比較したりしながら考えることで、児童の興味関心を高めることができる。主体的に学習に取り組むことにより、自ら課題を見いだすことができる。

【事例におけるICT活用の場面②】



○台風が近付いた時に起こる現象について調べる場面で、学習支援ソフトを用いて検索情報のリンクを貼ったカード（写真3）を児童に送信することで、全員が必要な情報（写真4）を短時間で得られるように工夫していた。台風が近付いた時の被害について、情報収集したことをもとに自分の考えをウェビングの手法を用いながらワークシートに視覚化し、関係性を明らかにしてまとめにつなげさせていた。

あらかじめ必要な検索情報が表示されたウェブページのリンクを共有することで、情報を限定することができ、文字入力や検索技能等の差を埋めることもできるため、全員が短時間で必要な情報を収集し、自分の考えをまとめることができる。

【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト 画像やリンクの共有
- ・ウェブブラウザ 情報収集